

マイクロクレデンシャル に関するFDシリーズ

急速に進化する教育分野において、マイクロクレデンシャル（MC）は、従来の資格取得プロセスを補完し、学習者に柔軟な学びを提供する新たな方法として注目を集めています。本ウェビナーシリーズでは、MCの基本的な理解から、発行に必要な保証、さらにはJV-Campusや他のMOOCでの活用事例に至るまで、幅広い視点からMCの現状と可能性を探ります。

Program

■ 第1回 基本理解編：マイクロクレデンシャルとは？

日程: 10月19日（土）10:30-11:30

講師: 芦沢真五、井上雅裕、米澤彰純

内容: 世界や日本でのMCの展開状況、基本的な概念について解説します。

■ 第2回 保証に関する理解編：MC発行に必要な知識

日程: 10月26日（土）10:30-11:30

講師: 井上雅裕、木村修平

内容: MC発行にあたり、学習の成果をどのように保証するのか、そのために必要な仕組みや考え方を紹介します。

■ 第3回 活用事例編：JV-Campusや他のMOOCでのMC活用

日程: 11月2日（土）10:30-11:30（ブラジル時間 22:30-）

講師: 飯吉透、池田佳子、大庭良介

内容: JV-Campusをはじめ、MOOCにおけるMCの実際の活用例について取り上げ、今後の展望を考察します。

■ 第4回 ユーザー視点編：国内外のユーザーから見たMCの実際

日程: 11月9日（土）10:30-11:30

講師: 池田佳子、井上雅裕、吉田俊明

内容: 国内外の学習者や関係者の視点から、MCの利便性や課題について議論します。

▼ 申込はこちらから



（締切）各開催日
前日の正午まで



芦沢真五

関西国際大学副学長・国際コミュニケーション学部教授。高等教育機関の国際化と外国学歴・資格認証にかかわる比較研究を展開し、現在、科研費基盤研究（B）「アジア太平洋地域の大学ネットワークにおけるマイクロクレデンシャル運用の実証研究」（2022～2025）の代表者としてマイクロクレデンシャルの運用にかかわる国際比較研究に取り組んでいる。



飯吉透

京都大学学術情報メディアセンター教授/京都大学大学院教育学研究科教授(兼任)。カーネギー財団知識メディア研究所所長、MIT教育イノベーション・テクノロジー局シニアストラテジスト、京都大学高等教育研究開発推進センター長・教授、教育担当理事補等を経て現職。日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)理事、CIEC(コンピュータ利用教育学会)会長等も務める。



池田佳子

関西大学国際部教授。2017-2021年度で実施したSUCCESS-Osaka事業、留学生の就職促進認定プログラムKU-SUCCESS等外国人留学生のキャリア形成支援事業の立ち上げと実施を担当。2018-2022年度には大学の世界展開力強化事業「グローバル・キャリアマインドを培うCOILPlusプログラム」を主担当。2022年度～2023年度には内閣府第二次教育未来創造会議構成委員として「J-MIRAI—未来を創造する若者の 留学促進イニシアティブ」の作成に参画。



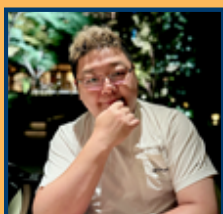
井上雅裕

慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特任教授、芝浦工業大学名誉教授。早稲田大学大学院理工学研究科物理学及応用物理学専攻博士前期課程修了。博士（工学）。技術士（情報工学部門）、シニア教育士（工学・技術）、三菱電機株式会社、芝浦工業大学教授、同副学長を経て、2021年4月より現職。一般社団法人PMI日本支部理事 教育国際化委員会委員長、一般財団法人オープンバジネットワーク理事、JV-Campus/JMOOC マイクロクレデンシャル合同WG発起人、IEEEシニアメンバー。



大庭良介

筑波大学教授。京都大学総合人間学部にて2000年に学士号取得、同生命科学研究科にて博士号を2007年に取得。筑波大学においてJV-Campus事業(全日本版の国際オンライン教育プラットフォーム)のプロジェクトリーダー、および、国際連携食料健康科学専攻(修士課程国際ジョイントディグリー)のカリキュラム委員長を務めている。専門分野は、医科学・生命科学、図書館情報学、科学社会学、科学哲学、東洋思想など多岐に渡る。



木村修平

立命館大学生命科学部生命情報学科教授。立命館大学教学部副部長（外国語教育改革・全学DX担当。2021～2024年度）。ミシガン州立大学社会科学部卒業、立命館大学大学院言語教育情報研究科修了、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。博士（政策・メディア）。専門は高等英語教育における情報通信技術（ICT）の利活用。共著に『AI・機械翻訳と英語学習—教育実践から見えてきた未来—』（朝日出版）、『プロジェクト発信型英語プログラム: 自分軸を鍛える「教えない」教育』（北大路書房）。



吉田俊明

一般財団法人オープンバジ・ネットワーク常務理事／事務局長。外資系金融機関にて証券業務や資産運用業務に従事したのちに教育ITベンチャーのネットラーニングに入社。さまざまなeラーニングソリューションを提案・実行し、営業統括を経て社長執行役員を務めた。現在は、ネットラーニング・ホールディングスの取締役副社長兼オープンバジ・ネットワークの常務理事としてオープンバジの普及を推進している。



米澤彰純

東北大学国際戦略室副室長・教授。総長特別補佐（国際戦略担当）。専門：比較高等教育・教育社会学。OECD・加藤静香編『高等教育マイクロクレデンシャル——履修証明の新たな次元』明石書店、2022年で解説を執筆、日本に紹介。